



田中孝議員

戸別所得補償制度に対する所見は

町長 担い手に手厚かったのを見るとやや中立的

■戸別所得補償制度

田中 戸別所得補償制度が実施されて、2年が経過しました。若い担い手を育成しなければならぬときに、面積の大小にかかわらず一律の補償ではいかなるものかと思っています。この制度に対する町長の所見を伺います。

町長 これまでの担い手に対する手厚く集中的な支援策から見ると、やや中立的になったようにも思われます。

全国で、交付金の58%は加入者の1割に過ぎない2ヘクタール以上の層に交付されていて、小規模農家にはこの施策の恩恵は少なかつたのではないかと思っています。

■農業再生協議会に改編

田中 白鷹町水田農業推進協議会が農業再生協議会に改編されました。どのように違ってきたのかと、会員に対する周知徹底をどうしたのかを伺います。

町長 農業者戸別所得補償制度は米だけでなく麦、大

豆などの畑作物も含まれることをふまえ名称を改めたものです。さらに担い手対策協議会や、耕作放棄地対策協議会の対応窓口の地域農業活性化センターを、農業再生協議会の構成員として統合しました。

周知はそれぞれの構成組織を通じて行いました。

■耕作放棄地の解消

田中 耕作放棄地の状況と解消の取り組みを伺います。

産業振興課長 耕作放棄地の面積は67・8ヘクタールほどで、農地として利用できる面積は約14・1ヘクタール、基盤整備など相当な手立てが必要と思われるのが約53・7ヘクタールととらえています。

平成12年以降から解消に向けて取り組み、町の耕作放棄地解消計画を策定したなかで対応しています。

■豪雪、暴風への対応

田中 豪雪や暴風の被害に対する、町の対応を伺います。

産業振興課長 県の被害対策事業を活用し、復旧資材

購入費の2分の1の額、野菜のパイプハウスには1平方メートル当たり525円を上限に農家に補助します。さらに、融資を受けた方への利子補給や、県の補助要綱に該当しない耐用年数の過ぎた物件などにも補助したいと考えています。

■都市との交流による販路拡大

田中 町の農業の体質強化をどのようにすすめていくのか伺います。

町長 東京都三鷹市や大田

区などで農産物販売や交流を積み重ねた結果として定期的な農産物の宅配へと発展しました。都市との交流による販路拡大を推進していきます。

■小水力発電を実験

田中 町の再生エネルギープロジェクトの進捗よく状況を伺います。

町長 実証実験では小水力発電を検討しており、水資源使用の県の許可を整理し、地元や町内企業の参画を得て行うところです。



豊作を祈って（畔藤園場）